

投資担当者独立 VC設立相次ぐ

公開企業増加見込む

最近活動を始めた主な独立系
VC、キャピタリスト

企業・個人名(所在地)	運用 基金額 (億円)	設立
▽フューチャーベンチャー キャピタル(京都市)	13	98/9
▽村口和孝氏(東京・文京)	17	98/11
▽インキュベイトキャピタ ルパートナーズ(東京・港)	35	99/11
▽ベンチャー・イノベーシ ョンズ(東京・港)	20	99/12

(注)村口氏は個人のためファンドの設立時期を記載した

円)用に出資者を募ったり、投資企業を開拓していた。新会社の資本金は八千万円で、北尾吉孝ソフトバンク常務も出資している。オーナー経営者を中心に二十億円の資金を集め、期間十年の投資事業組合を設立。既にネットウェブ(東京・品川)など十四社に五億七千万円を出資済みで、三月までにさらに二十五社程度の投資先を開拓する。

光通信の投資担当者など五人が独立して設立したのはインキュベイトキャピタルパートナーズ(ICP、東京、03・5464・3033)。民法上の組合形式をとり、法人と個人の七者が出資した三十五億円の基金を運用する。すでに八社に出資しており、五人が原則として投資先の役員となって経営を支援する。五人ともVC最大手のジヤフコの出身者で、これまでの経験と人脈を活用する。新規の開業支援の場合にはオフィスも提供する。早ければ今年後半にマザーズなどで株式公開する投資先も出る見通し。

日本のVCは金融機関系列が中心で、個人が出資して設立した独立系VCは少なかった。しかし、最近公開企業数の増加が見込まれるのに加え、未公開企業への投資希望者も増えてきた。独立系VCを設立して十億円以上の資金を集めた基金を作り、投資活動を始めるケースも増え始めている。

ソフトバンクや光通信のインターネット企業への投資業務担当者が相次いで独立し、ベンチャーキャピタル(VC)を設立した。それぞれ二十億円、三十五億円の基金を設け、ネットベンチャーへの投資を始めた。東京証券取引所マザーズなどベンチャー向け市場の発足で株式公開企業が増加する見通しで、事業会社やオーナー経営者など資金の出し手も増えている。投資実務の知識や経験がある個人にとり、VCを立ち上げやすい環境が整ってきた。

昨年末に発足したベンチャー・イノベーションズ(東京、03・549・9570)はソフトバンク系VC、ソフトバンクキャピタル(東京・千代田)の関元取締役ら四人が設立した。関氏らは同キャピタルで国内ネット企業向けの基金(百二十三億